

## プログラム:

### 3月11日(木) 第1日

- 13:00-13:10 開会の辞・趣旨説明  
松田 亮太郎 (名古屋大学 大学院工学研究科)
- 13:10-13:50 脳内蛋白質複合体の研究を通して、生物無機化学の未来について考えること  
横井 紀彦 (自然科学研究機構 生理学研究所)
- 13:50-14:30 超分子錯体化学を基盤とした細胞機能の模倣と制御  
窪田 亮 (京都大学 大学院工学研究科)
- 14:30-15:10 対アニオンの設計による配位重合触媒作用の制御  
田中 亮 (広島大学 大学院先進理工系科学研究科)
- 15:10-15:30 休憩
- 15:30-16:10 錯体化学に立脚した結合開裂過程の研究  
森本 祐麻 (大阪大学 大学院理学研究科)
- 16:10-16:50 錯体化学をプラットフォームとした分子集合体反応化学の開拓  
日下 心平 (名古屋大学 大学院工学研究科)
- 16:50-17:30 錯体化学研究から企業へ：研究開発ジャーニー  
栗谷 真澄 (昭和電工 研究開発部)

### 3月12日(金) 第2日

- 9:00-9:40 シアノ系金属錯体集積体の構造ひずみに基づく機能開拓  
大谷 亮 (九州大学 大学院理学研究院)
- 9:40-10:20 結晶性多孔体の新機能開拓  
貞清 正彰 (東京理科大学 理学部第一部)
- 10:20-11:00 金属クラスター集積空間におけるイオン輸送現象  
吉成 信人 (大阪大学 大学院理学研究科)
- 11:00-11:20 休憩
- 11:20-12:00 柔軟な電子状態を示す外場応答性金属錯体の開発  
関根 良博 (熊本大学 大学院自然科学研究科)
- 12:00-12:40 原子層半導体を舞台とする物質化学とデバイス工学  
桐谷 乃輔 (大阪府立大学 大学院工学研究科)
- 12:40-13:00 講評・閉会の辞  
北川 宏 (京都大学大学院理学研究科・錯体化学会会長)